

平成29年度 年報



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原
森林ふれあい推進センター

釧路湿原森林ふれあい推進センター

平成 29 年度 年 報

目 次

はじめに	1
この1年の取組	
・ 自然再生	2
雷別ドングリ倶楽部	6
・ 森林環境教育	11
るんるんフォレスト	15
活動区域及び所在地	19

【雷別地区自然再生事業地】



【集団枯損したトドマツ高齢級の人工林跡地】



【目標とする森林】

はじめに

釧路は北海道の東部、太平洋岸に位置し、「阿寒・摩周」「釧路湿原」の二つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた地域です。

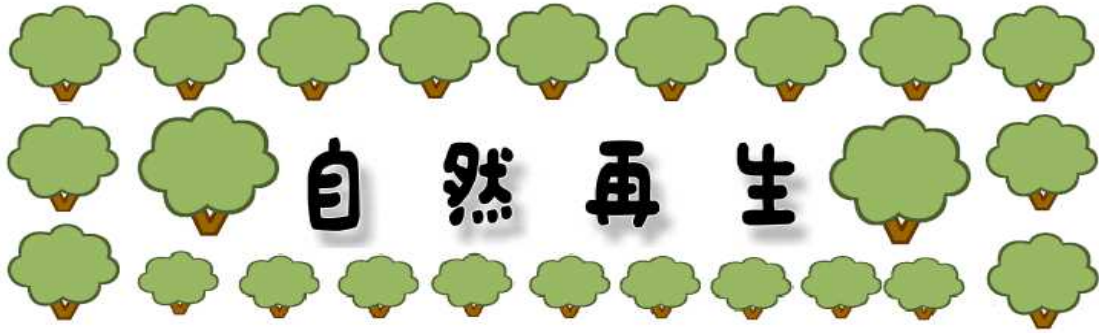
北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センターは、釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原を取り囲む国有林において、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

この度、平成29年度の主な活動内容を取りまとめましたのでご覧いただければ幸いです。

【パイロットフォレスト国有林】



【黄金色に紅葉したパイロットフォレスト】



平成29年5月18日 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第5回再生普及推進のための連携チーム会合に出席



平成29年5月26日 植樹イベント「雷別へ植樹に行こう！」を開催

釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、標茶町雷別地区国有林で植樹イベント「雷別へ植樹に行こう！」を実施しました。

このイベントは、雷別ドングリ倶楽部の活動とは別に、新聞・釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画オフィスが配信する「ワンダグリーンダニュース」・北海道森林管理局ホームページ等で広く釧路市民にボランティア植樹の参加者を募り、今年は28名の参加を得て、「山の日制定記念植樹」と題して実施しました。

植樹のため用意した苗木は、ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレの広葉樹の苗木 200本、木々が芽吹き鮮やかな緑色となったこの時期に、参加頂いた皆さんに一汗かいて頂きました。

植栽は午前中で終了し、午後は植えた苗木を動物の食害から保護するため、植生保護管（ツリーシェルター）の設置を行いました。

今年は食害を受けやすい広葉樹を植えたため、全ての苗木に設置する必要があり、全ての作業が終了出来ずに予定時間となってしまう、参加頂いた皆さんは心残りが有ったと思われませんが、残りの作業はドングリ倶楽部の活動で設置して頂きました。



堅いササ根に悪戦苦闘中



ツリーシェルター設置風景



平成29年6月15日 釧路湿原自然再生協議会
第29回再生普小委員会に出席



平成29年9月16日 産学官民連携による釧路湿原保全に向けた雷別地区
自然再生事業地での植樹活動を実施

産（西松建設(株)と関連会社＝Nネット）、学（釧路工業高等専門学校）、官（釧路湿原森林ふれあい推進センター、民（ドングリ倶楽部会員）の共同により、釧路湿原の環境を保全するために取り組んでいる雷別の自然再生事業地で、植樹活動他を行いました。

西松建設は地域社会との連携や環境保全を進める企業の社会的責任（CSR）活動の一環として、釧路高専では同校の卒業生の多くが西松建設に就職していることなどから、活動に賛同し連携して実施されました。

釧路から現地までの移動時間を利用し、バスの車内で、釧路湿原の現状や森林の働き、植樹活動の目的等の森林環境教育を実施。

参加者は50名とあって、センター職員では手が足りず、ドングリ倶楽部の会員の協力を得て(民)、ミズナラ・ヤチダモ・ハルニレの広葉樹の苗木180本を植栽。

午後からは、植えた苗木を動物の食害から保護するため、植生保護管（ツリーシェルター）の設置を行ってもらい、若い生徒が多かったこともあり予定より早い時間で作業が終了しました。



活動に参加された皆さんで記念撮影



植樹に精を出す皆さん



共同で苗木を植える生徒達



ツリーシェルターを設置する皆さん



平成29年10月5日 自然再生専門家会議委員の現地視察が開催

国土交通省が取り組んでいる旧川復元の自然再生事業実施計画策定に当たり、自然再生専門家会議委員が釧路湿原を訪れたのを受けて、当センターが実施している雷別地区自然再生事業の取組状況について、バス中の移動時間を利用して説明を行いました。



平成29年10月19日 第17回 森林再生小委員会を開催

釧路湿原自然再生協議会 第17回 森林再生小委員会が雷別地区国有林及び釧路地方合同庁舎で開催されました。

森林再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会内に設置されており、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等について検討しています。

今年度の森林再生小委員会では、当センターが実施している「雷別地区自然再生事業」地の取組状況の視察を午前中に行い、午後からは、環境省が実施している「達古武地域自然再生事業」と「雷別地区自然再生事業」の取組の経緯、今年度の事業実施と調査事項、来年度の事業実施内容等の説明を行い、これらに関する議論が行われました。



雷別自然再生事業地の視察風景①



雷別自然再生事業地の視察風景②



第17回森林再生小委員会(合同庁舎)



第17回森林再生小委員会(合同庁舎)



平成29年12月1日 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第6回再生普及推進のための連携チーム会合に出席



平成29年12月15日 釧路湿原自然再生協議会
第30回 再生普及小委員会に出席



平成30年1月18日 釧路湿原自然再生協議会
第2回事務局会議に出席



平成30年2月27日 釧路湿原自然再生協議会に出席

今年の協議会は、①釧路湿原自然再生協議会の構成員の公募結果 ②協議会の収支報告 ③各小委員会の開催結果等について報告及び協議が行われました。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは③の各小委員会の開催報告において、第17回森林再生小委員会（平成29年10月19日開催）で報告した自然再生事業の取組の経緯、今年度の事業実施と調査事項、来年度の事業実施内容等の説明と併せて現地視察の検討結果について報告を行いました。



議事進行する中村会長



第24回自然再生協議会
(釧路市観光国際交流センター)

雷別ドングリ倶楽部

「雷別ドングリ倶楽部」は、過去にトドマツ人工林が気象害により立ち枯れし、笹地となった雷別地区国有林の自然再生活動（広葉樹の森林づくり）に参加頂いているボランティアの方々の集まりです。

平成29年度は新規会員3名を含めた22名で、以下の取組を実施しました。



第1回 平29年6月8日「広葉樹苗木の植樹」

雷別地区国有林で、広葉樹苗木（ハルニレ、ヤチダモ、ミズナラ）の植樹と野生動物による食害対策として、植生保護管（ツリーシェルター）の設置を行いました。

植栽は前年度と同じ200本でしたが、ツリーシェルターは全ての植栽木に設置（前年は半数の100本）したため、全ての作業を終えることが出来ず次回の活動に持ち越しとなってしまいました。



植樹作業




ツリーシェルター設置作業



第2回 平成29年7月12日「植生保護管(ツリーシェルター)設置他」

雷別地区国有林で、第1回目の活動で未了となった野生動物による食害対策としての、植生保護管(ツリーシェルター)の設置と網目の細かい野生動物の侵入防止網の設置作業を行いました。



 この日の雷別地区国有林は、内陸地方の気象の影響を受け、30度越となった猛暑の中での作業となりましたが、会員の皆さんには汗まみれになりながら黙々と作業に従事して頂きました。

熱中症の危険を回避するために、午後からは予定を変更してパイロットフォレスト内での森林散策等に切り替えましたが、夏の暑い1日会員の皆さんの協力に感謝申し上げます。



ツリーシェルター設置作業



ツリーシェルター設置作業



食害防止網設置作業



食害防止網設置作業



第3回 平成29年7月26日「植生保護管(ツリーシェルター)設置他」

5月26日に実施した「雷別へ植樹に行こう」のボランティア植樹において、一部未了となった野生動物による食害対策としての、植生保護管(ツリーシェルター)の設置と第2回目の活動の網目の細かい野生動物の侵入防止網の設置作業を引き続き行って頂きました。

前回ほど気温は上がらなかったものの、釧路市内の気温より数段高い中での作業でもあり参加した皆さんにたっぷり汗をかいてもらいました。



食害防止網設置作業



第4回 平成29年9月13日「海岸林視察」

標茶町雷別国有林から離れ、今年は、釧路町東部の太平洋沿岸部から厚岸町までの沿岸に沿って発達する海岸段丘・海食崖などで構成される厚岸道立自然公園内の国有林の視察を行いました。太平洋を望む景観はすばらしく地球は丸いことを再確認することが出来、シレパ岬からの厚岸湾の景色を堪能し、国有林の木々は太平洋から吹き付けられる強風により不思議な形で伸びていました。

帰路の途中、釧路町の仙鳳趾村にある仙鳳禅寺の本堂の前で大きく育っている北限の「双龍杉」を成澤住職の解説付きで見学させて頂きました。



キトウシ野営場から太平洋を望む



「双龍杉」(正面中央左右の2本)



第5回 平成29年11月1日 「下刈り作業、パイロットフォレスト視察」

年間計画では、伐採作業現場とパイロットフォレストの視察を予定していましたが、伐採現場へはバスが入れず断念。

今年度、第2回目と第3回目の活動で下刈りを予定していた箇所が、野生動物の食害防止対策の植生保護管(ツリーシェルター)設置を優先したため、下刈りが未了となっていた箇所の作業を行っていただきました。



この場所は、平成26年度のドングリ倶楽部の活動で設置頂いた防鹿柵内で、平成27年、平成28年の活動で草刈りを行って頂いた結果、ササの勢力が弱まり、シラカンバの実生苗が発生した箇所で、下刈りの時期は逸していましたが、来年の更なる成長を期待して会員の皆様に一汗流して頂き、その後、昨年発見した釧路川支流にあたるシラルエトロ川の源流部となる『小さな滝』を見学。

午後からは、パイロットフォレストに移動し、高くそびえる望楼から、黄金色に染まった広大なカラマツ林の展望を楽しんでいただき、冬に近づきつつある1日を2つの森林で有意義に過ごして頂きました。



鹿柵内の草刈り作業



黄金色のパイロットフォレスト(望楼)から



名無しの滝



滝の拡大写真



わき出し口



第6回 平成30年2月14日 「雷別地区自然再生事業の学習会」

標茶町雷別地区国有林の森づくり活動（自然再生活動）を行うボランティア組織「ドングリ倶楽部」が、今年度最後となる第6回目の活動を根釧西部森林管理署会議室で行いました。

前半は、今年度の活動を振り返り、会員の意見の確認を図りながら次年度の活動計画の検討を行い、会員より、時期的に暑い日の作業は大変であるが、木の育成に必要な作業であれば、体調を自己管理しながら出来る範囲で進めて行くべきとの森林再生の志の高い意見も出され、次年度の計画を確定しました。



後半は、ドングリ倶楽部の会員が汗水流しながらご尽力いただいている、雷別地区自然再生事業の目的は釧路湿原の環境を保全するため、湿原に流れ込む河川の水量を安定させるための森林再生であり、そのために、枯損被害を受けたトドマツ人工林跡地を、人手が入らない以前の姿の森林（自然林）へ戻し、水土保全機能を高めるために広葉樹の植栽を皆さんに行って頂いている。

しかし、せっかく植えた苗木が、冬期間に野生動物の食害を受けて生育が芳しくないこと。食害は当初エゾシカが主因と思われ、食害防止策を行ったがその後も食害は減少せず、よく観察するとエゾユキウサギによる食害であったことを確認し、食害防止のツリーシェルターの設置を皆さんに行っている等について説明しました。

会員の皆さんは、過去に苦勞して植えた苗木が順調に育っていないこと、その要因がエゾユキウサギであったことを改めて承知される方もおり、食害防止の重要性について改めて認識して頂きました。





平成29年5月1日～2日「木のおもちゃで遊ぼう！」

4月29日（土）～5月7日（日）の9日間、釧路市こども遊学館（釧路市幸町）で、GWイベント「木のおもちゃであそぼう！」が開催されました。

期間中、木のおもちゃ展や様々な木の工作会・人形劇や大型の紙芝居などが行われ、釧路湿原森林ふれあい推進センターからは、イベント中盤の5月1日（月）・2日（火）の2日間「木の工作会」を開催しました。

当森林ふれあい推進センターが会場に持ち込んだのは、シラカバやミズナラなどをコースターのように輪切りにしたものやいろいろな形、大きさの松ぼっくり、木の枝等で、これらを材料に、木工工作を楽しんでもらいました。

また、全期間を通じて会場に設置された「木のおもちゃ展」には、当センターが用意した木製つみ木の「つみっき〜」のほか約 300 種類の木のおもちゃが用意されており、小さなお子さんが楽しそうに遊んでいました。

期間中に釧路市こども遊学館に親子連れで訪れた多くの皆さんに、木工工作と木製つみ木等で、木のぬくもりを体験してもらったのではないかと思います。



ドングリとコースターを使って作成中



完成した作品



平成29年5月25日 厚岸中学校 1 年生 社会見学

厚岸中学校一年生 22 名が社会見学の一環として、パイロットフォレスト国有林に訪れました。

1 日で国有林を含めた複数箇所を見学する予定もあり短時間の滞在となりましたが、早速生徒の皆さんにアカエ ゾマツ造林地の中に入って枝打ち作業を体験してもらいました。

中には初めて鋸を使う生徒もおり、思うように鋸が滑らず難儀している生徒も。

その後、パイロットフォレストにそびえ立つ望楼に移動。あいにくの曇り空でしたが展望室から、一面に広がるカラマツ林、遠く厚岸方面の眺望等を楽しんでもらいました。



枝打ち中の生徒達



望楼の前で集合撮影



平成29年8月1日 初任段階教員研修

釧路総合振興局森林室と連携した取り組みの一つとして、厚岸町のパイロットフォレストにおいて釧路・根室地域の若手教員を対象とした木育実習を行いました。

様々な工程がある中で「木育業務体験」を選択していただいた6名の研修生には、はじめ根釧西部森林管理署が発注している木材生産現場で、ハーベスタ等の高性能林業機械による伐倒、玉切り作業等の見学をし、研修生からは、大きな木があつという間に倒れ、丸太になっていく工程に驚きの声が上がっていました

その後、パイロットフォレスト内の研修棟に場所を移し、自己紹介を交えたアイスブレイクや、パイロットフォレスト造成のDVD視聴、望楼からカラマツ造林地の見学など造成の経過を学ぶと共に、ノコギリを使った間伐体験も実施しています。

当森林ふれあい推進センターからは、森林の働き「水源かん養機能」の説明と、森が水をきれいにする仕組みを、パイロットフォレスト内で採取した砂利や火山灰、落ち葉を詰めたペットボトルを活用して「簡単なるろ装置を作ってもらい、泥水をろ過する実験を通じて、森林の水質浄化機能を実感してもらいました。



高性能林業機械による伐採作業視察



木陰で「水源かん養機能」の説明



平成29年9月3日 パイロットフォレストの再生林事業地の見学

京都大学フィールド科学教育研究センター（標茶町）で「森里海連環学」として北海道大学と京都大学の学生を受け入れ、別寒辺牛川流域の森林植生、土壌、水質などに関する実習を行っています。

実習の一環として一行がパイロットフォレスト国有林を訪れ、根釧西部森林管理署で制作したDVD「未来へ継がれる森林パイロットフォレスト」の視聴と、望楼に移動して展望室から、一面に広がるカラマツ造林地を視察して頂きました。



DVD視聴中の大学生達



平成29年9月10日 白糠町カミングパラダイス

9月9～10日（土・日）の2日間、白糠町の商店街通り（ハミングロード）を閉鎖して「カミングパラダイス2017」が開催され、当センターは、2日目の10日に参加して木工教室を開催しました。

これは、白糠町緑化推進委員会が行う木育事業に協力するため、毎年釧路総合振興局の森林室と当センターが日替わりで取り組んでいます。

早朝は大雨の天気でしたが、開催時刻になるとお日様が顔を出し、会場は沢山の人の賑わっていました。

当センターからは今年、木の輪切り、カラマツやアカエゾマツの松ぼっくり、小枝などの「森林からの贈り物」を用意し飾り付けを行なってもらいました。

参加した皆さんは、デザインやバランスを考えて材料を選んでいましたが、子どものアイデアを優先してとお願いをするものの、お父さんやお母さんが、真剣になって取り組む場面も数多く見られました。



木工作成の様子①



木工作成の様子②



平成29年11月12日 「木育・森づくりフェア」

11月11～12日の両日、イオンモール釧路昭和 サンコート広場で、2017「木育・森づくりフェア」が開催されました。

このイベントは、釧路市民の方々に木とふれあう機会を提供し、木の良さ、森林づくりの重要性の理解を深めてもらおうと、釧路町村会地域づくり広域プロジェクト環境保全型森づくりプロジェクトチームなどが毎年行っているものです。

2日目の12日に根釧西部森林管理署と釧路湿原森林ふれあい推進センターが「木とのふれあいコーナー」に参加、来場した市民のみなさんに「松ぼっくりを利用したミニツリーづくり」を提供しました。

これは、松ぼっくりを小さな木にみたく、細めの木を輪切りにしたコースター状の台座に接着し、星（ビーズ等）を付けたり、雪（手芸用の綿）などで装飾をほどこすもので、主役のカラマツやアカエゾマツの松ぼっくりなどは釧路周辺の国有林で採取したものです。

会場では、木の葉のしおりづくり、木の葉のステンドグラスづくりなど楽しい木工作体験の他、木の玉プール、木の積み木などの木製遊具で小さなお子さんが楽しそうに遊ぶなど、買物に訪れた多くの方々に、木の良さや森林づくりの重要性を理解してもらえたことと思います。



木工作成の様子



標茶町市街から南東へ約15km、酪農地帯にある中茶安別小中学校は全校児童生徒36人（小学生17人、中学生19人）の小中併置校です。

学校の南西方約2kmの位置にある森林が、中茶安別小中学校の学校林（愛称「るんるんフォレスト」）で、同校では学校林を活用した森林環境教育に取り組んでおり、森林環境教育年間指導計画を策定し、様々な自然体験学習を行っています。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、平成18年度から学校林を活用した授業の協力を行っており、平成29年度は春・夏・秋の3回授業の協力を行っています。



平成29年5月24日 「春の学校林活動」

春の活動は、前段、昨年秋に設置したリンゴなどの実のなる木の雪害対策の支柱と野ネズミによる食害防止対策の器具の撤去作業が全児童で行われ、新しい一年生も先輩の教えを受けながら一緒になって行動していました

その後、小学生の部（17名）と中学生の部（19名）の二班に分かれ、当センター職員が講師となり「森林の働き」（水源かん養機能）、「地球上には沢山の水があるけど、人間が利用出来る水は限られていることや、水は涸れることなく自然の中で循環していること、森林はきれいでおいしい水を安定的に供給してくれている等」について学習しました。

小学生低学年には難解なお話しかと思いましたが、後半、ペットボトルを使った「水の浄化実験」を各学年でそれぞれ行って頂き、上から入れた茶色の泥水が、下から出るときには白い濁り水に変化したのを確認してもらい、最後に高学年の生徒から森林はきれいな水を作ってくれることは以前から学んで知ってはいたが、こんなに短時間に変わるとはびっくりしましたとの感想を頂きました。

実験ではわずか10cmほど浸透させたのですが、山の中では沢山の水が長い月日の間浸透し、きれいでおいしい水になって湧き出ていることを理解して頂きました。



活動内容の説明を受ける生徒達



水浄化実験中の生徒達



平成29年8月31日 「夏の学校林活動」

毎回、学校林をフィールドとして取り組んでいますが、今回は学校林から離れて近くにあるパイロットフォレスト国有林内で、林業機械を使った間伐作業を見学してもらいました。

森林管理署で発注した事業を実行している業者に協力いただき、ハーベスタ等の高性能林業機械を使用した伐倒、玉切り作業等を見学し、生徒達からは、大きな木があつという間に倒れ、丸太になっていく工程を初めて目にし、1台の機械で沢山の作業（伐倒・枝払い・玉切り）をこなしているのに「びっくり」していました。

伐採作業の見学後はセンターから、日本の森林の現状、日本の森林の約4割を占める人工林を健康な状態に保つためには間伐という作業が必要であること、安い外材に対抗するために高性能林業機械を導入して間伐材を生産していること、人工林を適切に管理することにより森林は健全に保つことに繋がるということを生徒の皆さんに学んで頂きました。

せっかくの機会でもあることから望楼に上がってもらい、一面カラマツで覆われた樹海をみていただきました。



高性能林業機械を使った伐採作業を視察する生徒達



間伐の必要生他の説明風景
(望楼から撮影)



平成29年10月26日 「秋の学校林活動」

冬を目前にしてのこの時期の活動は、学校林内に植栽した実のなる木をネズミの食害から守るため、ペットボトルを根元に設置と雪害にも耐えられるように支柱の設置も行いました。

平21年に植栽した梨の苗木は、早くも実を付け、生徒の皆で試食を開始、林の中で育った実は栄養豊かな土壌で育ち、皆おいしいおいしいと試食していました。

後段の活動に移ろうとしたときに生徒の一人が、小さくて細長い生き物を見つけて、「これは何？」から森林環境教育がスタート。

生後間もない「青大将」(体長 20 cm程度)の生態の説明や生き物に触るときはストレスを与えないよう「生き物にも尊敬の目を持って優しく扱うように」と講話、36名の生徒達は真剣に話に耳を傾けていました。

その後、林の中に落ちていた紅葉した葉っぱを一人3枚持ち寄り、ゲームの開始。一番葉の大きい葉っぱ、小さい葉っぱ、ギザギザの付いている葉っぱ、沢山の虫食いの穴のある葉っぱ、沢山の色が含まれている葉っぱ等々「さいころ」を使ってお題を決めて、周りの生徒達の葉っぱと見比べてどっちがお題に沿った葉を持っているのか小中学生入り乱れて競い合い、勝者を決める「葉っぱでジャンケンポン」というゲームを行いました。

沢山の色が含まれているお題では、勝ち残った3名の生徒が皆の前で、木の葉には「茶色でも薄い・濃い・普通の濃淡がある。茶色のみならず、赤や黄、緑等10種類以上の色が含まれている。」等々、活発に自己主張する生徒が沢山見られました。

判定の難しいお題もありましたが、勝ち残った者には職員手作りの「クルミのキーホルダー」をプレゼントしてゲームは終了。

続いて、皆が持ち寄った葉っぱを種類毎に集め、樹木ガイドブックを皆に配って、木の種類のお勉強を開始、最後に木の名前を解答用紙に書いてもらい「樹木博士の認定」式を行いました。



小さくて細長い生き物のお話し



葉っぱでジャンケンポン



平成30年2月23日 「総合的な学習会・生活科発表会」

標茶町立中茶安別小学校の総合的な学習の時間と生活科で学習した成果についての発表会が行われ、父兄の皆様と共に当センターも一緒に参観させていただきました。

中茶安別小中学校では、森林環境教育年間指導計画に基づき学校林等を活用した様々な自然体験学習が行われており、当センターでも春・夏・秋の3回、全校生徒を対象に体験学習を行っており、当センター以外にも外部講師の指導を受けながら自然体験学習が行われています。

「総合的な学習会・生活科発表会」では、子ども達がこの1年で学んだことの中から、学級毎にそれぞれの個性を生かした発表が行われました。

小学1～2年生は春・夏・秋の学校林活動で見つけた生き物などの発表がありカエル・ヘビの話と木に付着したシカの毛からシカのおしりはなぜ白いのかの究明、クルミの実を見つけリスを増やすためにクルミの木を沢山増やしたい等の発表がありました。

小学3～4年生は、「春の野草探し」、「秋のキノコ探し」、「ロープを使った木登り」、「スノーシューを履いた冬の森の探索」等沢山有る自然体験活動の中で、思いでに残る活動を写真や子どもたちの感想を交えながら発表が行われました



小学1～2年生の発表

また、小学5～6年生は、3つのグループに分かれて、①有効に使われていないツリーハウスの新たな活用としてブランコを設置したりターザンロープを設置して楽しく遊べる場としての活用プランを提案。②他の学校の生徒や保育園の児童たちに学校林を活用して楽しく学べる落ち葉ゲームや紙芝居、木や花を活用した森のクイズ等を行うプランを提案。③学校林の中にトイレを設置して気兼ねなく活動を楽しみたいというプランが出されるなど、生徒それぞれが学校林をどう守り、育て、生かしていくか思い思いの提案が出されました。



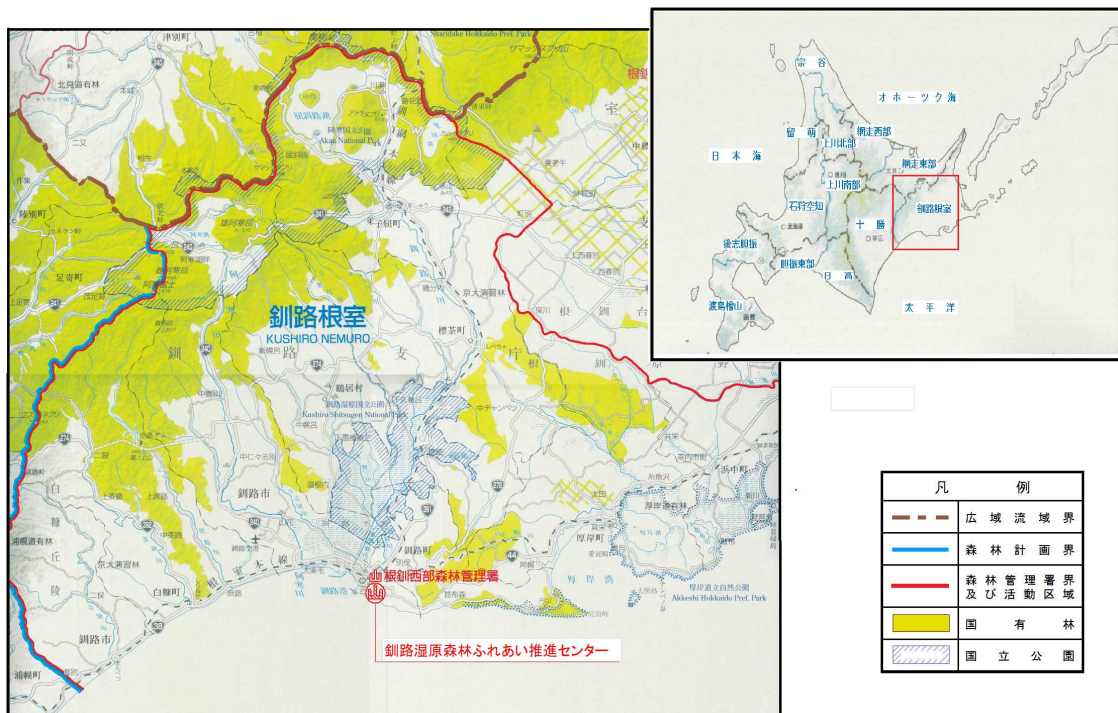
小学3～4年生の発表



小学5～6年生の発表

活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署管内（釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、鶴居村、標茶町、弟子屈町、白糠町の1市6町1村）の国有林を主な活動区域としています。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11

【IP】050-3160-5787【TEL】0154-44-0533【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

